

## 「トルコへ行こう!! 7日間」

No.38 鴛 海 拓 也

「夏休み」を利用してトルコに行くことにした。この計画は2年前に、ツアーの「説明会」にまで参加して申し込みまで済ませていた。しかし行く直前の他のツアーで、飛行機の激しい揺れを体験してからキャンセルに至ったので、今回は念願の「カッパドキア（気球体験）」であった。

### 8月4日（月）

「福岡空港」に、16時15分に集合。カウンターにてツアー受付を済ませ、18時15分の上海行きのフライトを待つ。前回、イタリアに行った際に親しくなった佐賀のK夫妻にも再会出来た。

ここから長時間の移動が始まる。

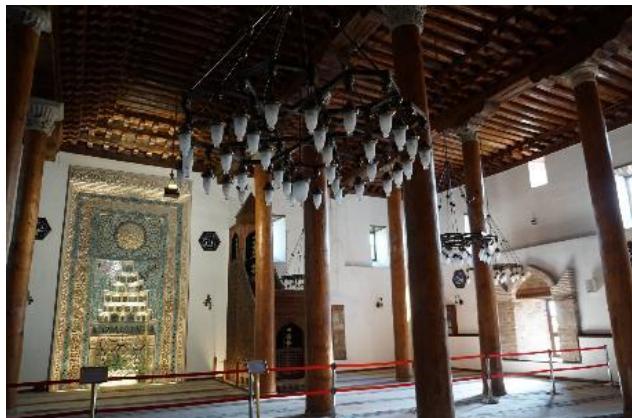
2時間（福岡～上海） 5時間（上海での乗り換え時間） 12時間（上海～イスタン布尔）

5時間（イスタン布尔～アンカラ：バス移動）

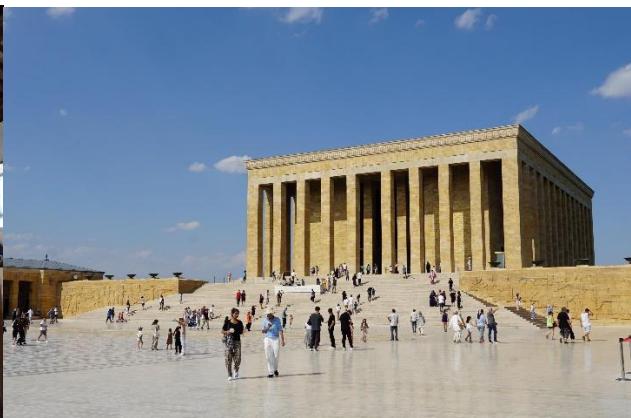
機内宿泊も含めて、現地でのホテル（アンカラ）到着までは、合計24時間である。

### 8月5日（火）

首都アンカラに午後に到着して、トルコ初の「世界遺産」一連の古い木造多柱式の「アルスランハネジャーミイ（モスク）」と、初代大統領の眠る「アタトゥルク廟」を訪れる。



アルスランハネジャーミイ



アタトゥルク廟

### 8月6日（水）

一路、「カッパドキア」に向かう。4時間のバス移動である。途中、トルコで2番目の大きさ、世界では「ウユニ湖（ボリビア）」に続く2番目の大きさの塩湖の「トウズ湖」に立ち寄る。トルコ国内の8割の塩は、ここで採取されている。水の無い塩の湖面を歩くが、向こう岸まで果てしない。

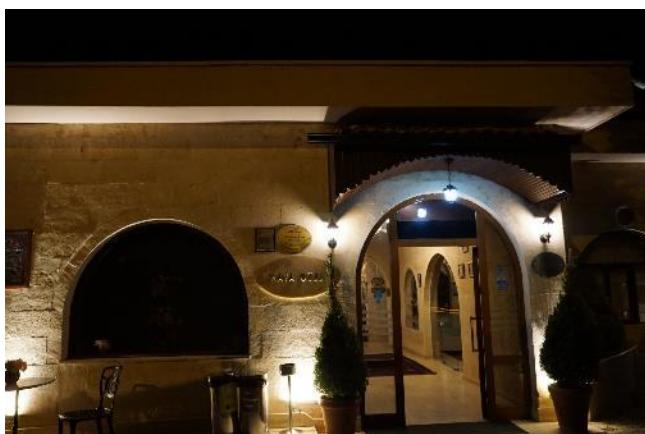
目的地のカッパドキアに到着。すぐに風景を撮影したいが、まずは「洞窟レストラン」で鱈の塩焼きを頂く。美味しいが、すごく大きかった。その後は同じく「世界遺産」の「ギョレメ野外博物館」に向かう。古い洞窟の中で現存する壁画や、当時の生活を思わせる内部を散策出来る。しかし、風水による浸食で残念ながら少しづつ小さくなっているらしい。レストランやホテルは、新たに壁面に掘られた洞窟なので地上は現代の作りである。エアコンや、バスやトイレなども完備しており、思ったよりは清潔で過ごし易い。外庭には、プールもあった。



トウズ湖(塩湖)



ギョレメ野外博物館



「ウチヒサール カヤ(洞窟ホテル)」



～部屋の様子～

8月7日(木)

午前3時に起床。4時半に「気球」の乗船場所までのバンが迎えに来る。ツアーの一行は23名だったが、このオプションを申し込まなかったのは「高所恐怖症」の一組の夫婦だけだった。「気球」は30人乗りで高度1000mにまで達するが、ふわりと浮かんでいくので実際には「恐怖感」は無かった。操縦士が知らせてくれてから高度が分かる程度であった。100~200個の「気球」が上がる所以、景色を背景に素晴らしい光景である。これらの画像を収めるために「新しいレンズ(約7万円)」を新調した甲斐があった。



～気球が光るのはボイラを焚いた一瞬だけ～



～約1時間のフライト～



～次々と上昇する数多くの気球～



～思ったよりも、気球はすごく大きい～

「気球」体験後は、昼食の「窯焼きケバブ」を済ませてから奇岩の並ぶ名所へ。



スリー・シスターズ(三姉妹の岩)



ラクダ岩



ウチヒサル城



こちらは本物のラクダ(笑)

8月 8 日(木)

連泊した洞窟ホテルを後に、朝 5 時半に「カイセリ空港」へ。最後の目的地の「イスタンブル」へと飛行機にて 1 時間 40 分の移動。到着後は「歴史地区」観光へ。まず、世界最大最古の市場と言われる「グランドバザール」へ。各種の色とりどりの商品が並ぶが、やはり「ブランド品」などは模造品が多い。少ない予算で買い物が出来るが、荷物がかさむのでウインドウショッピングだけを楽しむ。

その後は、ピンク色の大聖堂「アヤソフィア」を経て、オスマン建築の最高傑作と言われる「ブルーモスク」へ。外観は「スターウォーズ」の建築物のモデルになったと言われており迫力がある。内観も素晴らしい。特に天井の模様には息をのんだ。



グランドバザールの様子①



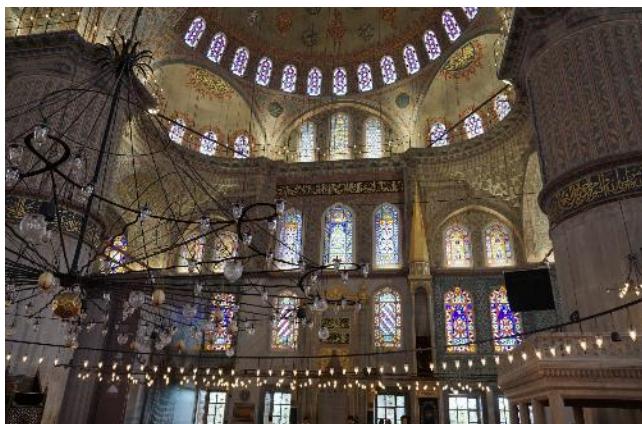
グランドバザールの様子②



アヤソフィア



木立に囲まれた「ブルーモスク」



「ブルーモスク」のステンドグラス



~天井の様子~

本日はトルコ滞在の最終日である。観光後は、「ボスポラス海峡」を約1時間のクルージングの後に夕食を経て、ホテルに向かう。2008年8月に世界最深度となる海中60mでの「沈埋函接続」を成功させ、同年9月には「海底トンネル」の沈設作業を無事完了。これは日本の企業が行った「海峡横断鉄道トンネル」である。潮流が速くて、分割した「函(はこ)トンネル」が直下に沈まないので集積した「データ解析」にて、潮の

流れを計算して沈埋させたと「プロジェクト X」で言っていた。「トルコ国民 150 年の夢」とも呼ばれていたらしい。この海峡は世界中から人気で、不動産は「一戸建て」で、1~3 億円と言われている。



ボスポラス海峡



～船上からの風景～



～船上からの風景～



海峡を見渡せるレストランで豪華な夕食を頂くが、グラスワインが一杯 600 リラ (2,400 円) と高い。「カッパドキア」では名産のワインがボトル一本で 900 リラ (3,600 円) だったのに(涙)。

8月 9 日(土)

朝 8 時半にイスタンブール空港へ向かって帰路に着く。行きと同じ行程なので仕方ない。

しかし翌日、福岡は「線状降水帯」で覆われていて、無事にお昼頃に「福岡空港」に到着出来たものの「博多駅」では JR が動いていなくて、すぐに「アパホテル」を予約。翌日の始発で帰宅予定だったが、JR も西鉄バスも「運航取り止め」だったので、すぐにフロントへ走って同部屋をキープした。「博多駅」ではスーツケースを持ったホテル難民や、払い戻しを求める客が「みどりの窓口」の長蛇の列を作っていた。結局、自宅に着いたのは 12 日(火)だった。ホテルに「大浴場」と「コインランドリー」があったので本当に助かった。

(世界三大料理)

中華料理、フランス料理、トルコ料理と言われている。今回、そのトルコ料理を楽しむ事が出来たのだが、ツアーパートicipantの中にはおなかの調子をこわす方もおられた。私も例外ではなかったのだが、オリーブオイルが多く使われているとか、ミネラルウォーターのカルシウム、マグネシウムが多いなど原因は分からなかった。